

「東洋の宝石」とも謳われた帝国ホテル二代日本館（ライト館）完成100周年記念
アメリカ近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライト（1867-1959）の展覧会を開催

FRANK LLOYD WRIGHT

The Wright Imperial Hotel at 100:
Frank Lloyd Wright and the World
帝国ホテル二代日本館100周年



《絵葉書 1965年頃の帝国ホテル二代日本館（東京、日比谷）》建築：フランク・ロイド・ライト、1965年頃 帝国ホテル蔵

フランク・ロイド・ ライトー世界を結ぶ建築

名称 | [帝国ホテル二代日本館100周年]フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築

会場 | 青森県立美術館

会期 | 2024年3月20日（水・祝）- 5月12日（日）

休館日 | 3月25日（月）、4月8日（月）、4月15日（月）*、4月22日（月）

*4月15日（月）はフランク・ロイド・ライト展のみ展示替えのため休室。

開館時間 | 9:30 - 17:00（入館は16:30まで）

観覧料 | 一般 1,500（1,300）円、高大生 1,000（800）円、中学生以下無料

*（ ）内は20名以上の団体料金、4/13以降はAOMORI GOKAN アートフェス 2024公式ガイドブック特典「スタンプラリー&パスポート」割引料金。

*心身に障がいのある方と付添者1名は無料。

主催 | フランク・ロイド・ライト展青森実行委員会（青森県立美術館、青森放送、青森県観光国際交流機構）

後援 | アメリカ大使館、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人DOCOMOMO Japan、有機的建築アーカイブ

特別協力 | コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館、株式会社 帝国ホテル

助成 | 公益財団法人ユニオン造形文化財団

協賛 | 倉橋建設株式会社

展示協力 | 有限責任事業組合 森の製材リソラ

会場構成 | 青木淳 (AS) + 佐藤熊弥 (tandem)

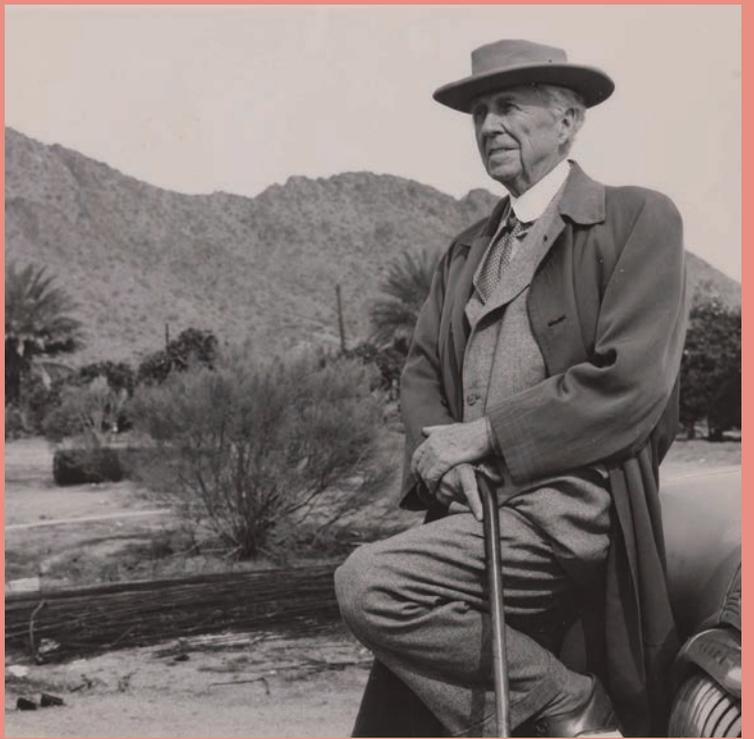
*この展覧会は、フランク・ロイド・ライト財団の協力のもと開催されます。

展覧会概要

アメリカ近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライト(1867-1959)。「カウフマン邸(落水荘)」や「グッゲンハイム美術館」で知られるライトは、「帝国ホテル二代目本館(現在は博物館明治村に一部移築保存)」や「自由学園」を手がけ、熱烈な浮世絵愛好家の顔も持つ、日本と深い縁で結ばれた建築家です。

2012年にフランク・ロイド・ライト財団から図面をはじめとする5万点を超える資料がニューヨーク近代美術館とコロンビア大学エイヴリー建築美術図書館に移管され、建築はもちろんのこと、芸術、デザイン、著述、造園、教育、技術革新、都市計画に至るライトの広範な視野と知性を明らかにすべく調査研究が続けられてきました。こうした研究成果をふまえ、本展はケン・タダシ・オオシマ氏(ワシントン大学建築学部教授)とジェニファー・グレイ氏(フランク・ロイド・ライト財団副代表、タリアセン・インスティテュート・ディレクター)を迎えて日米共同でキュレーションを行ない、帝国ホテルを基軸に、多様な文化と交流し常に先駆的な活動を展開したライトの姿を明らかにします。

世界を横断して活躍したライトのグローバルな視点は、21世紀の今日的な課題と共鳴し、来るべき未来への提言となるはずです。



画像1. 《フランク・ロイド・ライト、タリアセン・ウェストにて》撮影者不詳、1954年
コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイブ蔵
The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art | Avery Architectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)

展覧会の見どころ

1. フランク・ロイド・ライトによる精緻で華麗な建築図面

浮世絵の構図などをヒントに、ライト独自の描き方で描かれた建築図面は精緻で美しく、まるで絵画を鑑賞しているような気分を味わえます。

2. ライトのデザインによる家具やステンドグラス、ディナーウェアの数々

ライトは建物の設計に加え、建物の中に置く家具や食器類に至るまでをトータルでデザインし、空間全体を演出しました。現在でも人気の高いライトのインテリアデザインの一部を実物展示します。

3. ユーソニアン住宅の原寸再現(一部)により、ライト建築を体験

アメリカの一般市民が低価格且つ心地よい住宅を建てられるようライトが考案した「ユーソニアン住宅」。原寸モデルで玄関から居間の一部を再現展示し、実際の空間を体験いただけます。

製作：有限責任事業組合森の製材リソラ、磯矢建築事務所

4. 「自由学園」と、同校を創立した羽仁もと子(八戸市出身)とライトとの交流

ライトと弟子の遠藤新が手がけたことで知られる「自由学園」校舎(現・「自由学園明日館」)。当時の貴重な資料をとおして、厚い信頼関係で結ばれていたライトと羽仁もと子との交流を紹介します。

5. 青森県立美術館設計者による青森会場ならではの会場構成

当館設計者である建築家の青木淳氏と、佐藤熊弥氏が会場構成を担当。当館独自の展示デザインにより、新しい表情のライト展をご覧ください。

セクション1 モダン誕生 シカゴー東京、浮世絵的世界観

ライトが建築家としてのキャリアをスタートさせたアメリカ中西部最大の都市、シカゴ。そして、後に帝国ホテルを建てることになる東京。近代化により変貌していく2つの都市の姿とともに、ライトと日本文化との出会いや浮世絵との深いつながりなど、初期の活動を中心に紹介。



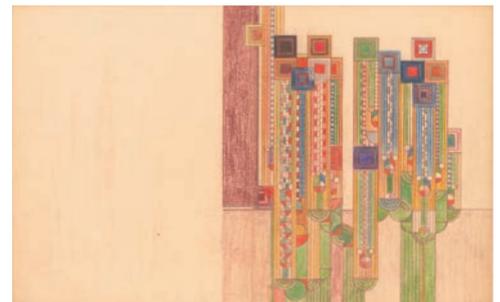
画像2. フランク・ロイド・ライト《第1葉 ウィンズロー邸 透視図》
「フランク・ロイド・ライトの建築と設計」
1910年、豊田市美術館蔵

セクション2 『輝ける眉』からの眺望



画像3. 《タリアセン第二 (ウイスコンシン州スプリンググリーン)》
建築：フランク・ロイド・ライト 撮影：ヘンリー・ファーマン、1915年
コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイヴス蔵
The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art |
Avery Architectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)

ライトは人間と自然と建築の美しい調和を理想とし、「有機的建築」を提唱した。滝の上に建てられた代表作「エドガー・カウフマン邸（落水荘）」や丘の中腹に配されたライトの自邸兼スタジオ「タリアセン(ウェールズ語で「輝ける眉」の意)」、アリゾナ州ソノラ砂漠に築いた「タリアセン・ウェスト」など、自然に寄り添い設計された作品の数々。



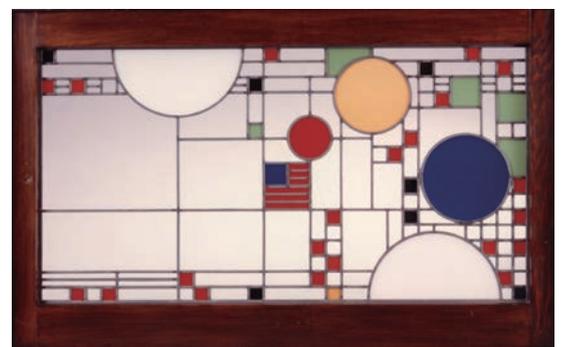
画像4. フランク・ロイド・ライト《『リパティール』誌のための表紙デザイン案 柱サボテンとサボテンの花》1927-28年
米国議会図書館版画写真真部蔵（展示期間：3月20日-4月14日）Photo：Library of Congress, LC-DIG-ppmsca-84873

セクション3 進歩主義教育の環境をつくる

民主主義の基本は教育にあると考えていたライトは、教育や女性の権利について進歩的な考えをもつ女性たちと積極的に関わる。自身の自邸とスタジオも、子どもの成長にあわせてプレイルームを設けるなど増改築を重ねていく。女性の運動家や教育者らの依頼により手がけられた教育施設とその関連資料を中心に紹介。



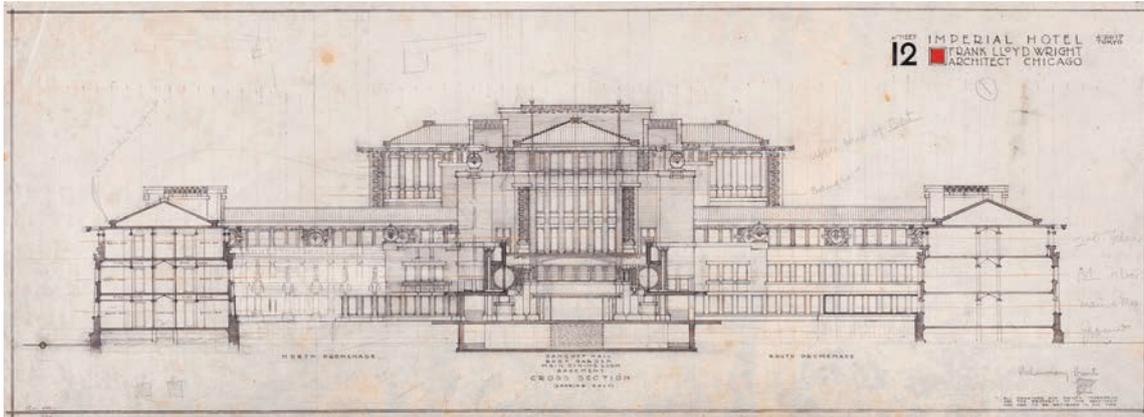
画像6. 《自由学園明日館（東京都、池袋）1921年 正面ファサード》
建築：フランク・ロイド・ライト、遠藤新 撮影：2021年、写真提供：自由学園明日館



画像5. フランク・ロイド・ライト《クーンリー・プレイハウス幼稚園の窓ガラス》
1912年頃、豊田市美術館蔵

セクション4 交差する世界に建つ帝国ホテル

日本に延べ3年以上滞在しながら設計した帝国ホテルは、ライトの生涯にとって一世一代の大仕事となった。帝国ホテル設計のためのドローイングから模型、写真、家具、建築素材まで、さまざまな資料をとおして「帝国ホテル二代目本館」の全貌を紹介。



画像7. フランク・ロイド・ライト《帝国ホテル二代目本館（東京、日比谷）第2案 1915年 横断面図》コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイヴス蔵 The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art | Avery Architectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)

セクション5 ミクロ／マクロのダイナミックな振幅

ライトは、全体と部分との有機的な関係を重視し、小さなものから大きなものまで展開可能なユニットシステムを探究した。なかでもコンクリートという素材に着目し、コンクリートブロックをまるで織物を織るように施工していくテキスタイル・ブロック・システムを考案、そのシステムは個人住宅から、ランドスケープとインフラと建築が融合した「ドヘニー・ランチ宅地開発計画案」のような大規模な開発計画の設計にまで適用された。



画像8. フランク・ロイド・ライト
《ドヘニー・ランチ宅地開発計画案（カリフォルニア州ロサンゼルス）1923年頃 透視図》
コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイヴス蔵
The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art |
Avery Architectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)



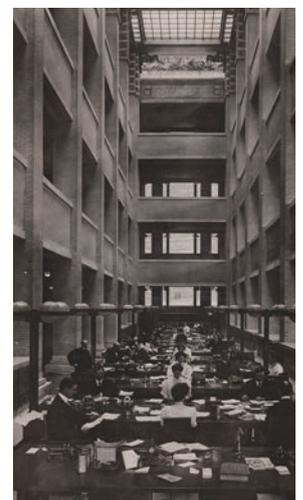
画像9. フランク・ロイド・ライト《ミラード夫人邸『ミニアトウラ』
（カリフォルニア州パサデナ）1923-24年 庭園側から見た透視図》
ニューヨーク近代美術館蔵 The Museum of Modern Art, New York. Gift of
Mr. and Mrs. Walter H. and Mrs. Walter H. Hochschild, 1981 © 2023 Digital image, The Museum
of Modern Art, New York/Scala, Florence

セクション6 上昇する建築と環境の向上

高層建築にもライトは早くから関心を示し、生涯を通じて高層ビルの設計に取り組んだ。天窗のある高さ23mの明るく開放的な「ラーキン・ビル」や“世界でもっとも美しいオフィスビル”と呼ばれた「ジョンソン・ワックス・ビル」の他、実現していれば528階建て、1マイル（1,600m）の高さを誇る高層建築物「マイル・ハイ・イリノイ計画案」などを紹介。



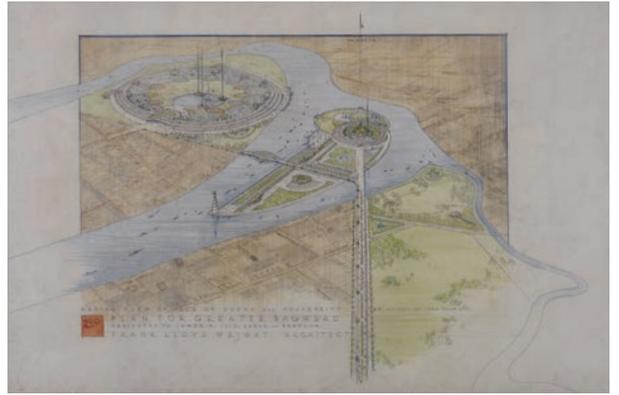
画像10. フランク・ロイド・ライト
《ジョンソン・ワックス・ビル本部棟 中央執務室の椅子》
1936年頃、豊田市美術館蔵



画像11. 《ラーキン・ビル（ニューヨーク州バッファロー）1902-06年 内観 吹き抜け》建築：フランク・ロイド・ライト 撮影：1905年
コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイヴス蔵
The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art | Avery Architectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)

セクション7 多様な文化との邂逅

ライトを形作ったのは、多様な文化との出会いと交流だった。日本をはじめ、世界各地を旅して多くの交流を持ち、さまざまな文化的要素を取り入れながら自身の作品へと結実させていく。イスラム文化との出会いから生まれた美しい都市計画「大バグダッド計画」やアメリカの田園都市における生活と労働の再構築案として提案された「ブロードエーカー・シティ構想」などを紹介。



画像12. フランク・ロイド・ライト《大バグダッド計画案（イラク、バグダッド）1957年 鳥瞰透視図 北から文化センターと大学をのぞむ》
コロンビア大学エイヴリー建築美術図書館フランク・ロイド・ライト財団アーカイヴス蔵

The Frank Lloyd Wright Foundation Archives (The Museum of Modern Art | Avery Architectural & Fine Arts Library, Columbia University, New York)

展覧会公式カタログ

フランク・ロイド・ライトに関する近年の調査研究の成果を基にした、本展覧会公式カタログを販売。



「フランク・ロイド・ライト——世界を結ぶ建築」

ケン・タダシ・オオシマ、ジェニファー・グレイ／監修・著、水上優+田中厚子+田根剛+マシュー・スコンスバーグ／著、豊田市美術館+パナソニック汐留美術館+青森県立美術館／編

体裁：B5・256頁（カラー166頁）

定価：2,800円（+税）

発行：鹿島出版会

関連イベント

〔開幕記念トーク〕

「フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」展監修者のケン・タダシ・オオシマ氏と本展企画者の大村理恵子氏による本展開幕記念トークを開催、本展の見どころを分かりやすくお話しいたします。

日時 | 3月20日（水・祝）14:00～15:00

登壇者 | ケン・タダシ・オオシマ氏（ワシントン大学建築学部教授）、大村理恵子氏（パナソニック汐留美術館主任学芸員）

会場 | 青森県立美術館

定員 | 20名（要事前申込）※

参加無料

※申込み期間等の詳細については、後日ホームページ等でご案内します。

上記以外の新しいイベント情報は決定次第、青森県立美術館の展覧会ページにてお知らせします。

フランク・ロイド・ライト 略年譜

- 1867年 ウィスコンシン州リッチランド・センターに、バプテスト派説教者で音楽家でもある父と、教師である母の間の長子として誕生。
- 1886年(19歳) ウィスコンシン大学マディソン校の土木コースに通うが、翌年にはシカゴに赴き、ジョセフ・ライマン・シルスビーの事務所に就職。
- 1888年 (21歳) シルスビー事務所を辞め、アドラー&サリヴァン事務所にドラフトマンとして就職。翌年、キャサリーン・リー・トビンと結婚し、イリノイ州オークパークに自邸建設。
- 1893年 (26歳) アドラー&サリバン事務所より解雇。シラー・ビル内に事務所開設。
- 1894年 (27歳) シカゴ美術館のシカゴ建築クラブで初のライト展開催。独立後最初の作品としているウィンズロー邸竣工。
- 1905年 (38歳) 施主のウォード・ウィリッツ夫妻とともに初の外国旅行となる日本訪問。
- 1910年 (43歳) フィレンツェ北東の町フィエゾレに逗留し、「ヴァスマート・ポートフォリオ」制作。
- 1911年 (44歳) 新しい住宅兼仕事場となる複合施設、タリアセン（タリアセンI）を建設。
- 1913年 (46歳) 2度目の日本訪問。帝国ホテル支配人の林愛作と面会し、帝国ホテル敷地を見学する。
- 1914年 (47歳) タリアセンにおいてパートナーのメイマーら6人が殺害され、放火される。
- 1923年 (56歳) 7月、帝国ホテル全館完成。竣工披露式典当日の9月1日に関東大震災が発生するも、同ホテルは倒壊せず。
- 1932年 (65歳) 『自伝』及び、都市を主題とした著作『消えゆく都市』を出版。タリアセン・フェローシップを設立。
- 1934年 (67歳) アリゾナ州チャンドラーのハシエンダ・インにて、ブロードエーカー・シティ構想模型製作開始。
- 1937年 (70歳) エドガー・カウフマン邸「落水荘」竣工。
- 1938年 (71歳) アリゾナ州スコッツデールにタリアセン・ウェストの建設開始。
- 1951年 (84歳) 1月、「生ける建築の60年」と題したライトの作品展をフィラデルフィアで開催（その後、ヨーロッパを巡回）。
- 1959年 アリゾナ州フェニックスで死去。享年91歳。没後、グッゲンハイム美術館竣工。

【画像のご提供】

本リリース掲載画像1~12をデータでご提供いたします。お電話やメールで画像番号をお知らせください。

※(画像貸し出し条件)

- 1 画像は、本展紹介以外の目的で使用しないでください。
- 2 画像データを第三者に渡すことはできません。使用后、データは消去してください。
- 3 作品画像は全図で使用してください。部分画像やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
- 4 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記入ください。
- 5 掲載、放送の際には事前確認のため、ゲラ、掲載誌(紙)または映像のご提供をお願いいたします。
- 6 掲載誌(紙)は、下記広報担当あてに一部ご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

問合せ先：フランク・ロイド・ライト展青森実行委員会（青森県立美術館内）[広報担当]唐牛(かろうじ)、今 TEL 017-783-3000 bijutsukan@pref.aomori.lg.jp